

2022年7月11日

プレスリリース

ヒューマンライフコード株式会社

新型コロナウイルス感染症 重症患者に対する

第 I 相臨床試験で臍帯由来間葉系細胞の安全性を確認

～日本医療研究開発機構（AMED）「COVID-19 に対する治療薬開発」採択プロジェクト～

臍帯（へその緒）の細胞で世界に先駆けて医薬品化を目指すヒューマンライフコード株式会社（代表取締役社長：原田 雅充、所在地：東京都中央区、以下「当社」）は、新型コロナウイルス感染症（以下「COVID-19」）に伴う急性呼吸窮迫症候群（以下「ARDS」）を対象とした第 I 相臨床試験（以下「本治験」）にて、最終被験者への投与と主要観察が完了し、2022年6月29日に実施された効果安全性評価委員会にて、臍帯由来間葉系細胞（以下「HLC-001」）が安全に投与されたことが確認されたので、お知らせいたします。

本治験の結果、ARDS を合併した COVID-19 に対する HLC-001 の 2×10^6 個/kg、週 2 回計 4 回投与にて、いずれの症例でも重篤かつ HLC-001 と因果関係のある副作用はみられず、かつ室内気で SpO₂（経皮的動脈血酸素飽和度）が維持できるまで回復し、治療効果が期待されました。

本件について、当社の代表取締役社長の原田雅充は次のようにコメントしています。

「治験の組み入れには長期間に渡り困難を極めました。ご尽力いただいた先生方と医療従事者の皆様、そして何よりも被験者となってくださった患者さんのご協力を頂戴した賜物です。この第 I 相臨床試験の 1 例 1 例の結果、及び先行研究の結果と共に急性炎症性疾患に対する HLC-001 の有効性と安全性に関するエビデンスを着実に積み上げてまいります。」

当社は、新たな治療の選択肢を待っている患者さんを第一に考え、臍帯由来間葉系細胞の一日でも早い製品化を目指してまいります。

■本研究への支援

本研究は、国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業の一環として行われました。

■ヒューマンライフコードについて <http://www.humanlifecord.com/>

私たちは、国産かつ備蓄可能な臍帯（へその緒）からの細胞医薬品を製造・開発し、現在でも確立した治療のない難病患者さんへつなげ（“コード”）、その先には健康寿命延伸につながる病気の重症化予防を目的とする未来の医療へとつなげる（“コード”）ことで、誰もが心豊かな生活を実現できる社会（“ヒューマンライフ”）を創り出すことをビジョンとしています。

2019年「第1回東京ベンチャー企業選手権大会」最優秀賞&東京都知事賞受賞。

■創業者 兼 代表取締役社長 原田雅充の略歴

旧通産省工業技術院生命工学工業技術研究所を経て、岐阜大学大学院生物資源利用学遺伝子工学を修了（農学修士）、日本化薬（株）創薬研究本部に入社。アムジェン（株）にて臨床開発業務に従事する傍ら、東京大学医科学研究所分子療法研究分野にて急性白血病に対する新規薬物送達システムの研究、セルジーン（株）にて血液がん治療薬の自社販売体制を構築し、市場導入の成功に貢献。その後、米国での小児患者との出会いをきっかけに起業を決意しニューヨークへ、MBA（経営修士）取得。帰国後、シンバイオ製薬（株）執行役員、営業・マーケティング本部長を経て、2017年4月にヒューマンライフコード（株）を創業。名古屋大学大学院医学系研究科老年科学非常勤講師を兼任。一般社団法人日米協会会員。

本件に関するお問い合わせ先：

広報担当 林 友紀

E-mail: info@humanlifecord.com / TEL: 080-4671-0405